

ピンクアイ

THMS 住谷 峻

ピンクアイという病気は *Moraxella bovis* という細菌に感染することによって起きる目の病気です。感染初期では涙が出たり、目が充血したりというのが特徴ですが、病気が進行すると目に赤い肉芽を形成し、重度になると失明してしまう病気です。この病気によって死亡する例は少ないですが、乳量低下などの経済的損失が大きいいため早期に発見・治療をすることが望ましい疾病です。



初期症状 流涙、結膜（白目）の充血と腫れ、角膜（黒目）の白濁が認められる

《診断》

この病気の変化は目に集中しておきるため、眼の状態を観察することで診断ができます。発病初期の特徴は、著明な流涙や目の腫れ、黒目部分が白く濁る事などです。なので、最近・涙を流すことが多い・目が腫れている等の事が気になったらすぐに獣医師に連絡し、検査をすることが早期の発見につながります。

《治療》

この細菌には、ペニシリン・ゲンタマイシン・テトラサイクリン・クロラムフェニコール類の抗生物質が効果があるので、これらの抗生物質による点眼を行うことにより治療が可能です。テトラサイクリン系の抗生物質の筋肉内注射も効果があります。



治療例 抗生物質を溶かした点眼液を入れたスプレーを使用

この菌は、ハエなどの昆虫が媒介して感染します。これからの季節そのような病因昆虫が増えるため、感染が増加することが考えられます。皆様注意して牛を観察してあげて下さります様、お願い申し上げます m(_ _)m